

第10回 釧路川流域委員会
議事概要

日時 : 平成 19 年 10 月 30 日(火) 15:30 ~ 17:30
場所 : 釧路地方合同庁舎 5F 共用第 1 会議室
出席者 : 小磯委員長、辻井副委員長、内島副委員長、小川委員、杉沢委員、
高山委員、濱委員、伊東委員、佐藤委員、池田委員、徳永委員、日野浦委員
(以上 委員 12 名)

1. 議題

委員長から第 10 回委員会開催にあたって以下の発言が行われた。

- ・ 先般よりご審議いただいている釧路川水系河川整備計画【国管理区間】についての審議は、予定では今回で最終となっている。
- ・ この流域委員会は平成 14 年 10 月から都合 5 年間 10 回にわたる審議を行ってきており、その間、若干整備基本方針策定が遅れるという状況もあったが、流域委員会ではグランドデザイン策定など地域の声を整備計画に反映させていくための独自の検討審議を進めてきた。
- ・ 昨年 9 月には釧路川水系河川整備基本方針が示され、それ以降釧路川水系河川整備計画策定に向けて動き出し、前回の第 9 回委員会では河川管理者より原案が示され、欠席委員からも書面でご意見を頂くという形で各委員から大変幅広いご意見を頂いた。
- ・ 事務局より、第 9 回委員会以降に住民意見聴取も進められたと報告を受けている。
- ・ 本日は、前回委員会で出された意見に対する河川管理者としての考え方、対応、補足説明を頂き、流域委員会として河川整備計画原案に対する意見をより充実したものにしていきたいと考えている。

1) 釧路川水系河川整備計画【国管理区間】(原案)について

- ・ 第 9 回流域委員会におけるご意見について

事務局から第 9 回流域委員会におけるご意見について説明した。その後、下記の通り発言があった。

【説明者 流域計画官】

(委員長)

丁寧な補足説明を頂き感謝したいと思う。その中で河川水位、水質の経年変化について調査結果を説明して頂いた。水質の方はなかなか原因の特定は難しいと思うが、水位の変化について河川管理をしている立場から河川工学的な見地で捉えた場合に、こういうところが原因あるいは要因として考えられるのではないかとということをお聞かせ頂きたい。

(事務局)

概ね予測が可能なところと調査を進めていかなければ分からないところがある。例えば標茶観測所と五十石観測所を見ると、標茶での水位は低下傾向を示し、五十石での水位は上昇傾向にある。これは支川オソベツ川の流量増加が起因しているのではないかと予測がつく。今後、しっかりとバックデータを見ながら傾向をつかみ、水防活動などの今後の取り組みに生かしていきたいと考えている。

また、前回の委員会で、岩保木より下流の方で年々水位が上がっているという意見があったが、データを整理した結果、近年は低下傾向にある。これは湿原の影響を受けている可能性はあるが、さらに照査していかなければ原因は分からない。また、鳥取観測所は海水位の影響もあり長期で見ても大きく変化はしないと予測できるが、近年話題になっている海面上昇などの影響を受けやすいので、引き続き見ていかなければならないと考えている。

(委員長)

今後、技術的な面でのさらなる計測手法の開発というようなところも含めて、ご検討頂きたい。

(委員)

先日の27日、28日に洞爺湖で行われた、高校生環境サミットがあり、本校が全道の代表として、釧路湿原の保全に関するプロジェクトを発表し、全国大会でも発表した。釧路湿原の保全は全国区という視点が必要と思う。そういったことから、前回の議論を踏まえ、3,11,26の意見に対し非常に配慮ある修正がなされ、これは評価できると思う。是非、このような形で推進して頂きたい。

(委員)

釧路市及び釧路町住民20万人の水道水源は1水源しかなく、釧路川の水質は非常に気になっている。近年のCOD、BOD値は悪化しているが、将来に亘り私どもの水道水源は釧路川に頼ることになるので、水質の維持あるいは流量の確保について、是非、開発建設部のお力添えを頂きたい。

(委員長)

釧路川のこれからの整備計画を考えていく場合、釧路川の存在は下流域の釧路市という都市機能との連携、共存と切っても切り離せない。流域都市住民の経済、生活活動、そういう面での良好な関係を維持し、共存していくことは、これからの整備計画の基本的な軸であると考えている。

・関係住民からのご意見について

事務局から関係住民からのご意見について説明した。その後、下記の通り発言があった。

【説明者 治水課長】

(委員)

岩保木水門の古い方は昭和6年に完成したが、開かずの水門で終わってしまったという感じがする。現在ある新しい水門については、早く水を流した方が良く、もうちょっと調査した方が良くなど様々な意見がありその対応を考えなければならないが、今後どういう方向に検討を加えていこうと考えているのか。

(事務局)

岩保木水門については、開けるべきというご意見、湿原に対する影響を考えると開けるべきではないというご意見、両方の意見があることを承知している。

今後、湿原への影響や下流に流せる流量の可能性など様々な事項について検討を行い、根拠あるデータに基づき、関係者の方々のご意見を伺いながら判断していきたいと考えている。

(委員)

漁業者の立場から言えば、岩保木水門は開けてもらっては困るという意見である。

水門を開けた場合、サケマス増殖事業の規模、釧路川の母川の価値、シシャモの遡上の状況、河床の状況、あるいは湧水時の岩保木水門の水位低下、河口閉塞が大きな問題になってくる。

水門を閉めてから70年経過している中で、周辺の湿地は、自然保護の立場からも希少価値の魚類等の貴重な生息地になっていると考えている。

釧路川にサケマスと呼ばうとすれば、別保川や遠矢川を中心に行うべきであると考えている。新釧路川へのサケマス遡上から見れば、その1/1000や1/1,000程度しか遡上せず、再生産にはつながらないと思う。本当にサケを遡上させたいならば、釧路町の生活雑排水をきれいにするなどから手をつけていくのが本来の運動の方針と考えており、岩保木水門の開放については、資源管理上も自然保護の面からしても、理にかなっていないと考えている。

(委員長)

今回の釧路川水系河川整備計画は、釧路川下流域は対象になっておらず、別途、下流部会で審議したところ。今回、住民の方から意見に対して今の状況や、色んな考え方があるという事を、濱委員のご意見の中であわせてご紹介頂いたものと思う。

関係住民からの意見については、十分その趣旨に沿うような検討をお願いしたいという形で、流域委員会として河川管理者にお伝えしたい。

流域委員会で提出した意見や関係住民からの意見については、しっかり対応して頂き、最終の整備計画策定に向けて努めて頂くということで、これで最終の審議の場にしたいと思う。

(委員)

河川流量や水質については具体的に詳しく報告されているが、湖沼の水深や土砂の堆積状態については、整備計画の中では対象にはならないのか。水量の減少は水質悪化を招きやすくなるので注意を払った方がいいと思う。

(事務局)

湖沼の底の変化までは踏み込めていないが、環境基準を満たすための必要事項の分析は行っていきたい。その中に底質の問題などが絡んでくるだろうと考えている。

(委員長)

今後に向けての見通しも含めて、技術的にはどうか。

(事務局)

課題認識が重要だと思う。例えば釧路川本川の水質は上流の屈斜路湖まで同様の傾向にある。そこで屈斜路湖に何らかの問題があるのではないかなれば、屈斜路湖の分析に力を入れていく。3湖沼のほうも水質が良くないという状況であれば、そちらにも手を広げていかななくてはならないと思う。

まずは既往データを基に分析し、必要な調査を進めていきたいと思っている。

(委員長)

今後の河川管理上、河川管理者として検討を進めるという形で受けとめて頂きたい。今後最終的な河川整備計画がどのような形で策定されるかについては、私の方で責任を持って確認するというご了解頂きたい。

(委員)

参考資料1の整備計画の実施箇所図について、河畔林の保全、河川の適正な利用、治水に関する維持管理などの一般論については、記載するとかえってわかりづらい。もう少し見やすい図に工夫して頂きたい。

(委員)

整備計画の実施箇所図では、オソベツ川となっているが、これは久著呂川ではないか。

(事務局)

整備計画の実施箇所図では、緑色の河川区域内の河川名は釧路川が正式名称であることから、このような表記としている。

地域の方々等に整備計画を分かり易く説明するために作成したものであることから、今回の意見を踏まえて修正を行い、今後地域の方々などの説明に使用していきたいと思う。

2. その他

今後のスケジュールについて

(事務局)

今後の釧路川水系河川整備計画【国管理区間】(原案)は、関係住民から頂いた意見と、今回も含め流域委員会の皆様から頂いた意見とをあわせて反映させ、原案から案にする予定です。この案を知事に意見照会をかけ、釧路川水系河川整備計画【国管理区間】策定というスケジュールになっています。

(事務局)

今後の釧路川下流域の予定ですが、平成16年3月に第7回流域委員会で最終報告をさせて頂いた釧路川下流域河川整備計画について、その後釧路湿原自然再生事業として久著呂川において土砂流入対策の実施計画書が策定されましたので、当河川整備計画に盛り込んで充実した河川整備計画としたいと考えております。このため、名前を釧路川下流域河川整備計画として、久著呂川を今後追加していきたく考えております。

(委員長)

流域委員会での、メインとなる議論は釧路川本川の河川整備計画についてである。下流域については内島先生の下流部会で議論して頂いており、軽微な変更内容については部会の運用を活用しつつ、最終的な結果については私の方に取扱いを一任頂く形で、機動的な対応で進めさせて頂きたい。

3. 閉会